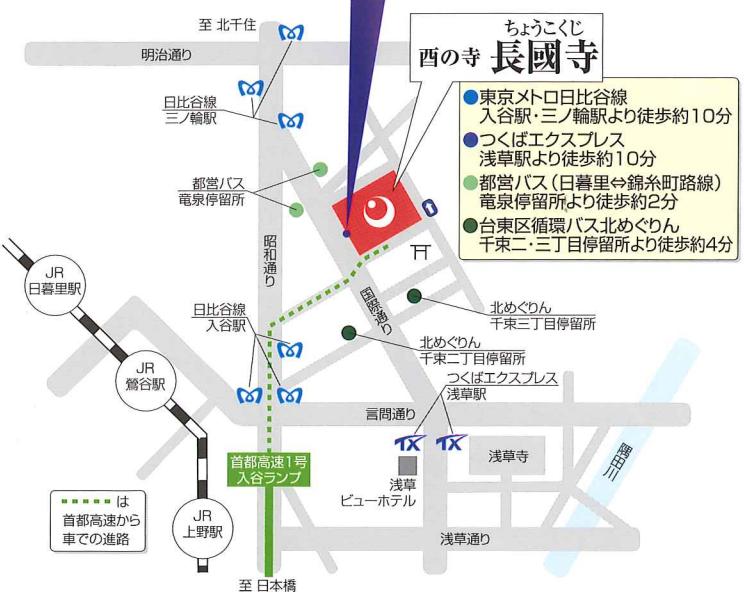
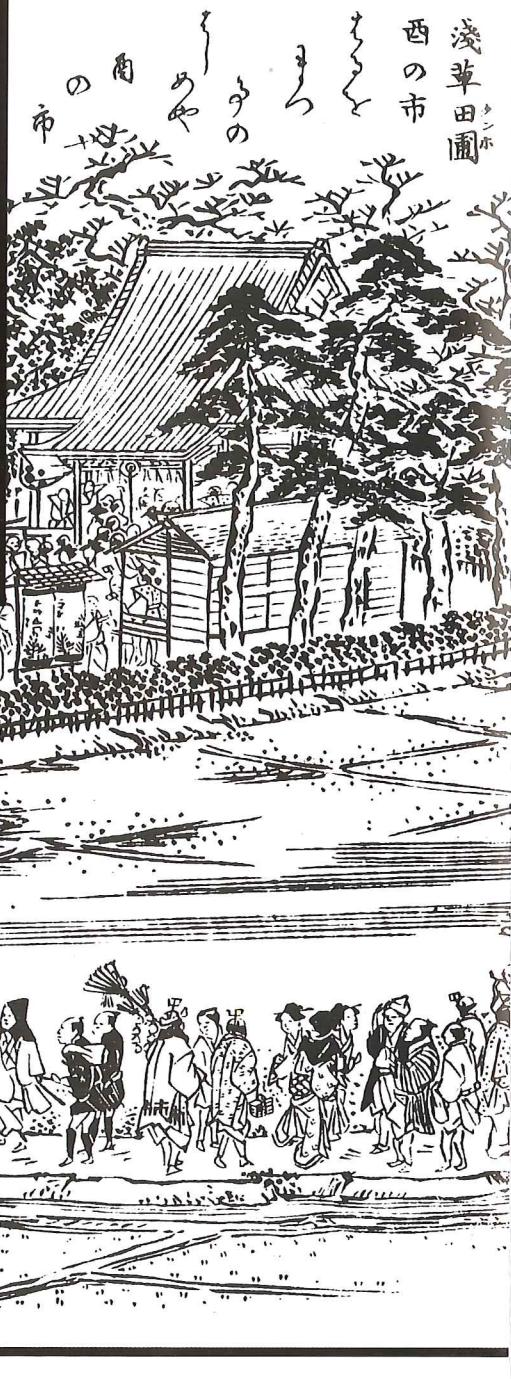


鷲在山
じゅざいさん

長國寺

浅草田甫 西の寺
たんぱ とり てら
ちようこうじ



法華宗 鷲在山 長國寺／浅草田甫・西の寺

〒111-0031 東京都台東区千束3-19-6

TEL. 03-3872-1667

■長國寺ホームページ <http://otorisama.jp/>

■西の市ホームページ <http://torinoichi.jp/>

鷲在山

長國寺

浅草田甫「西の寺」



わしみょうけんだいはさつ
鷲妙見大菩薩
(開運招福の守り本尊)

鎌倉時代、文永二年（一二六五）宗祖、日蓮大聖人が上総国鷲巣（千葉県茂原市）の小

早川家（現在の大本山鷲山寺）に滞留の折、國家平穏の祈願をこめたところ、十一月酉の

日、明星がにわかに動き出し示現したと伝わる尊仏が鷲妙見大菩薩です。七曜の冠を戴き宝剣をかざして鷲の背に立つ姿から、「鷲大明神」「おとりさま」と呼ばれてきました。

長國寺の鷲妙見大菩薩は、北斗七星がその第七星、破軍星を戴いて顕現した妙見菩薩です。古来より北斗七星と北辰星（北極星）は妙見菩薩となつて衆生を吉方に導き、破軍星は武運長久を守護するとされました。また七曜を長國寺の寺紋とするのは、その紋章が妙見菩薩の表象であるためです。この鷲妙見大

当山は江戸時代、寛永七年（一六三〇）に石田三成の遺子、大本山長國山鷲山寺第十三世・日乾上人により浅草寺町に開山されました。宗祖を日蓮大聖人とし法華經を依教とする法華宗（本門流）の寺です。山号を鷲在山、寺号を長國寺と称し、「南無妙法蓮華經」を本尊とします。開山当时より十一月酉の日に大本山鷲山寺の鎮守である鷲妙見大菩薩（鷲大明神）の出開帳が行われ、多くの参詣者の厚い信仰を集めて門前に市が立つようになりました。また鷲妙見大菩薩は江戸庶民より「おとりさま」と呼び親しまれ、長國寺も浅草田甫「西の寺」と称されるようになりました。

長國寺は寛文九年（一六六九）に現在の地、浅草千束に移転。鷲妙見大菩薩は明和八年（一七七一）に大本山第五十世、長國寺第十三世・日玄上人により当山へ移し勧請されます。当時は本堂のほか諸堂を配した大伽藍があり、鷲妙見大菩薩が安置された番神堂は妙見堂、鷲大明神の社、鷲の宮と呼ばれました。

明治初年の神仏分離令により当寺は、境内を含め寺と鷲神社とに分割されましたが、鷲妙見大菩薩は現在も長國寺に安置され、十一月酉の日にご開帳の法要が行われています。その後、関東大震災、東京大空襲などで焼失再建を繰り返しながらも、檀信徒家の外護により平成二年に山門、平成四年に本堂を落慶し現在の寺容となりました。

開山より、西の寺長國寺は歴史の変遷の中、法華經を依教として法燈絶えることなく今日に至っています。

ご開帳日と定め、以来開運招福の守り本尊として広く尊崇されています。



鷺妙見大菩薩のご開帳は、十一月酉の日に。

この鷺妙見大菩薩は、鷺大明神とも呼ばれ、開山の頃より「おとりさま」として厚い信仰を集めてきました。当時よりご開帳の日、十一月酉の日に門前市が立ち、それが現在の浅草「酉の市」の発端となっています。

当日は、午前0時に大太鼓の合図で

読経が始まり、鷺妙見大菩薩の安置される厨子の扉が開かれます。本堂内がすべて清められると本堂正面に祈祷師が立ち、参詣に訪れた人々に向けて開運招福を祈念します。そして一堂に会した参詣者の威勢のいい手締によって、いよいよ市が始まります。

酉の寺・長國寺と、酉の市の賑わいは江戸時代より、さまざまに文芸に描かれています。

江戸の中頃より賑わいを増した浅草酉の市。おかげや作り物の大判小判を飾った「縁起熊手」が、財や福をかき込み、掃き込むと、商売繁盛を願う人々を持って囃されました。一方長國寺では、小さな竹の熊手にたわわに実る稻穂をつけた開運招福のお守り「かつこめ熊手」を出しています。また人の頭にと願う「頭の芋」、金持ちになる「黄金餅」など洒落の効いた縁起物が江戸っ子の評判となり、青竹の菴笠や今戸焼の人形が売り出されたこともありました。

町人による文芸が花開いた江戸で、酉の市の盛況ぶりは格好の主題とされ、「春を待つ事の始めや酉の市」と其角に詠まれたり、数多くの隨筆や錦絵に登場します。中でも歌川広重が描いた『絵本江戸土産』(第六編)には



「浅草大音寺前に在り日蓮宗長國寺に安置したまふ鷺大明神と世にはいへど実は破軍星を祀りしなりとぞ、十一月酉の日には参詣の諸人群衆なし、熊手と唐の芋をひさぐを当社の例とす。」との文章が書かれており、当時の長國寺の賑わいと鷺妙見大菩薩への人々の信仰が伺えます。開運招福の守り本尊、鷺妙見大菩薩は商売繁盛・武運長久の守護、子女の守り本尊、芸能・博打の守護など、時代とともに移り変わる民衆の篤い願いを包括した尊仏として伝えられてきました。

このように江戸庶民の文化の中につつかり溶け込んだ酉の寺・長國寺と酉の市は、江戸時代からの伝統と文化をそのまま今に受け継いでいます。

明治時代の神仏分離令の後も、伝統を守つて現在まで。

明治時代の神仏分離令により、当山は酉の寺長國寺と鷺神社に分かれ、各々が酉の市を開くようになり、現在も十一月酉の日に鷺妙見大菩薩のご利益を求めて数多くの人が訪れています。当寺では江戸の頃より変わらぬ開運招福のお守り「かつこめ熊手」を授けておりそれを縁起熊手につけて、より一層の福を願う諸人の姿があります。

一年の無事に感謝し、来る年の幸いを願う酉の市。ここ浅草は江戸の頃より、最も賑わう酉の市といわれて参りました。そして、当山山主として日蓮大聖人の大願そのままに法華經の功德をひとりでも多くの皆様に伝えたいと念じております。

合掌

一年の無事に感謝し、来る年の幸いを願う酉の市。ここ浅草は江戸の頃より、最も賑わう酉の市といわれて参りました。そして、当山山主として日蓮大聖人の大願そのままに法華經の功德をひとりでも多くの皆様に伝えたいと念じております。



本堂内陣